

研究課題名	胎便関連性腸閉塞症の予後予測因子の検討と予後予測モデル構築に関する研究
研究の意義・目的	胎便関連性腸閉塞症は、出生後、新生児期に胎便の排泄が認められず、腸閉塞症状を呈する疾患です。治療としては手術治療ではない保存的治療がまず行われますが、症状の改善が見られない場合は手術が必要となります。 現在、保存的治療を継続する期間や外科的治療介入の時期に関して具体的な指標がないので適切な治療方針の決定に苦慮することがあります。 胎便関連性腸閉塞症になった新生児の特徴を明らかにし、評価することで適切な治療方針決定のための指標を確立し、その有用性を評価します。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～ 2028 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2014 年 1 月～2024 年 10 月に大阪公立大学医学部附属病院で、胎便関連性腸閉塞症を治療された方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：病歴、身体所見、診断名、年齢、性別、既往歴、家族歴、検査データ、治療内容
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科小児外科学のみで行います。 【研究責任者】大阪公立大学医学研究科 小児外科 廣瀬雄輝
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 小児外科 担当者氏名：廣瀬 雄輝 電話番号：(06) 6645-3841